

新任医師のご紹介

4月より清水厚生病院の整形外科に勤務しておりますのでご紹介いたします。



高岸 憲二 kenji takagishi

略歴

昭和 50 年 3 月	九州大学医学部卒業 九州大学整形外科入局
昭和 54 年 7 月	米国 Columbia 大学整形外科留学
昭和 57 年 7 月	九州大学整形外科助手
昭和 60 年 4 月	国立福岡中央病院医師
昭和 61 年 8 月	北里大学医学部整形外科助教授
平成 7 年 4 月	北里大学医学部整形外科教授
平成 9 年 4 月	群馬大学医学部整形外科教授
平成 15 年 4 月	群馬大学大学院医学系研究科 整形外科学教授
平成 28 年 4 月	群馬大学名誉教授 サンビエール病院名誉院長

【診療科】 整形外科

【専門分野】 肩関節 リウマチ

【資格】 日本整形外科専門医、日本整形外科スポーツ認定医、日本体育協会スポーツドクター、日本整形外科リウマチ認定医、リウマチ学会認定医

【学会活動等】 日本整形外科学会（理事）、日本整形外科スポーツ医学会（前理事長）、日本軟骨代謝学会（評議員・理事）、日本肩関節学会（前理事、代議員）、日本リウマチ学会（評議員）ほか

皆様こんにちは。清水厚生病院 整形外科に本年 4 月より月に一度診療しております高岸 憲二です。整形外科は身体の部位別や疾患によって専門がいくつかに分かれています。私は今年 3 月までは群馬大学医学部整形外科教授として主に肩関節およびリウマチの患者さんを診療してきました。

肩の病気という皆様は五十肩を想像されるではないでしょうか。私の外来には「いつまでも五十肩が治らないんだよね。」と言って来院される患者さんも多くおられました。よく調べてみると腱が切れている腱板断裂や上腕二頭筋長頭腱炎、関節の老化現象である変形性肩関節症などの病気が見つかります。これらの病気の多くはリハビリや痛み止めなどによりよくなりますが、中には手術が必要になることもあります。

若い方では野球によって肩が痛くなり、ボールを投げられなくなる選手も多く診てきましたが、多くの選手はリハビリテーションによってよくなっていきます。手術が必要な選手は大体 20 人に一人程度でした。

肩関節の病気の多くは、外来で治っていきますが、中には手術が必要な方もおられます。このように書いている私も右肩腱板断裂修復術を受けており、患者さんの気持ちも良くわかりますし、肩の病気におけるリハビリや手術などの重要性を身にしみて強く感じている一人です。もし、肩の病気で何が困ったことがありましたら、是非一度診察させていただきます。お待ちしております。

☆完全予約制になります。

ご紹介いただく場合は病診連携室までお問い合わせください。診療日は HP をご参照ください。

TEL 054-366-3333（代表） 054-367-9566（病診直通）